

「たまごのワーク」 豊中市

R5.6.12 (月)



豊中市立子育て支援センターほっぺにおいて、『子育てちょっと一息「子どもとのかかわりについて』』と題し、親学習プログラムが実施されました。取材日は、連続講座の5回めで「たまごのワーク」が行われ、取材した地域教育振興課職員も一緒に体験しました。

前回から2週間経ったけど、その間の子ども様子は？

メインファシリテーターは豊中市の親学習リーダー伴野さんが務めます。まずは、アイスブレイキングとして2週間の子どもの様子を報告し合いました。また、親学習時の4つのルール「時間」「参加」「尊重」「守秘」を確認し、相手の話を聴くことなどのお話しもありました。

赤ちゃんのイメージは？

まず、「赤ちゃん」で思い浮かぶことをワークシートに書き込みました。ミルクやおむつ、首がすわっていない、愛おしい、柔らかいなど、子どもが産まれてきた時を思い出し、懐かしみながらも、あつという間に書き込まれていました。自分の子どもや子育てを振り返るきっかけにもなっていました。



たまごに顔を描いている様子
自分の赤ちゃん(たまご)のプロフィール(名前やどんな子どもに育ってほしいか)を考え、たまごに顔を描きました。



心の中で語りかけている様子
目を閉じて自分の赤ちゃん(たまご)を温めながら、語りかけているうちにどんどん愛情が湧いているようでした。

「子どもの大切さ」

自分の赤ちゃん(たまご)への思い入れが強くなったところで、隣の人に預けなければならないというシチュエーションを設けました。

預けたお母さんたちからは、「心配」や「寂しい」という感想もあれば、「任せた!」「信頼しているから大丈夫」といった感想もありました。また、預かったお母さんたちは「緊張した」や「返したときはほっとした」と答えていました。

たまごを通して、子どもの大切さを改めて感じることであった時間でした。

また学校での親学習について事例紹介もありました。体験後の1週間、赤ちゃんの成長日誌を書くという宿題が出され、家でたまごを見つめながら、子どもたちが日誌を書き、親子での会話やコミュニケーションにも繋がっているというお話もありました。